

【火山現象に関する予報及び警報の状況】

9 月 29 日、雌阿寒岳に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表し、噴火予報（平常）から引き上げた。その他の火山は、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する予報及び警報の発表履歴（9 月 26 日～10 月 2 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
9 月 29 日 14 時 30 分	雌阿寒岳	火口周辺警報	「平常」から「火口周辺危険」に引上げ
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布状況

表 2 10 月 2 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード*	該当火山
火口周辺警報	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、霧島山（新燃岳）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	雌阿寒岳、硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）
	平常	上記以外の活火山

* 噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応をキーワードで示している。噴火警戒レベルを導入していない火山については、警戒事項をキーワードで示している。（本概況末の対応表参照）



図 1 噴火警報発表中の火山（10 月 2 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

雌阿寒岳めあかんだけ [火口周辺警報（火口周辺危険）] ← 9月29日に噴火予報（平常）から引上げ

9月26日20時以降、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加した。9月29日14時11分頃には振幅のやや大きな火山性微動（継続時間4分）が発生し、直後から火山性地震が多発したことから、火山活動が高まっていると考えられ、火口周辺警報（火口周辺危険）を発表した。

火山性地震は、火山性微動が発生した9月29日14時台に140回と多発した以降は徐々に減少し、9月30日以降は1時間あたり数回以下に減少しているものの、9月26日の増加前に比べてやや多い状態が続いている（図2）。9月29日以降、火山性微動は発生していない。

ポンマチネシリ火口の噴煙は白色、火口縁上100m以下で、大きな変化はなく低調に推移している。GPSによる地殻変動観測では変化はみられない。また、9月30日11時過ぎに北海道の協力を得て気象庁及び北海道大学が行った上空からの観測では、ポンマチネシリ火口や中マチネシリ火口の状況に特に変わった様子はなく、9月30日及び10月1日に実施した現地調査でも噴煙活動等に特段の変化は認められなかった。

雌阿寒岳では、2006年、1996年、1988年のごく小さな噴火が火山性地震の増加・減少を繰り返すなかで発生している。今後しばらくの間は、ごく小さな噴火が発生する可能性があり、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾に注意が必要である。

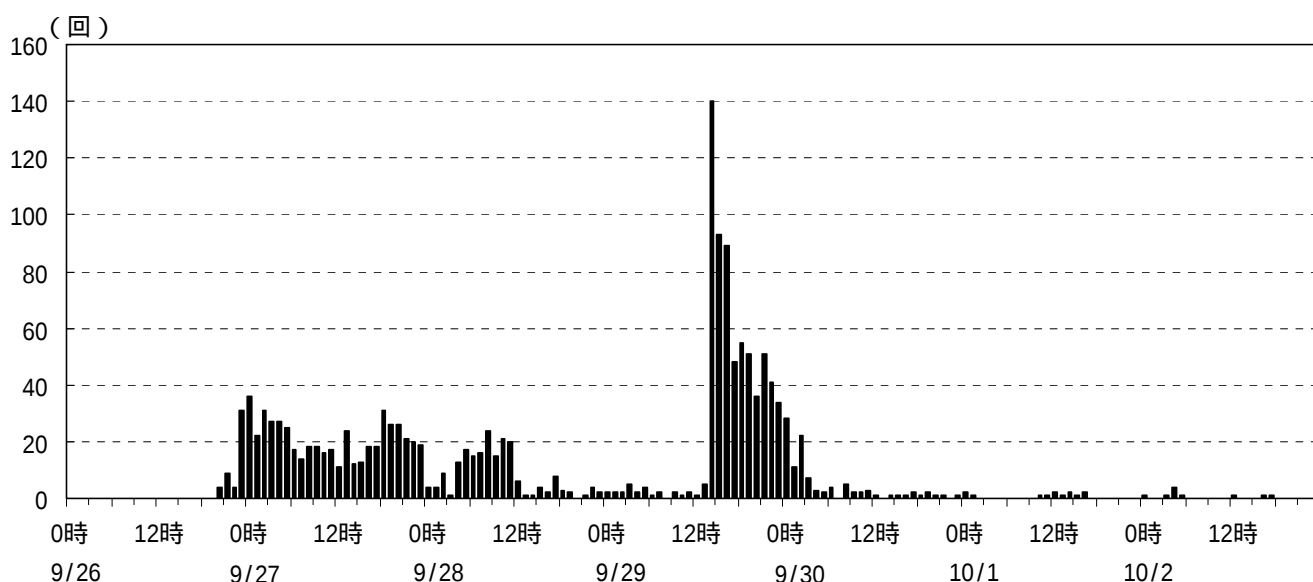


図2 雌阿寒岳 火山性地震の時別回数（2008年9月26日～10月2日）

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

浅間山あさまやま [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

山頂火口の噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には高感度カメラ²⁾により微弱な火映が時々観測されている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

10月2日に国土交通省利根川水系砂防事務所の協力により行った上空からの観測では、火口内及び火口周辺に新たな噴出物等の跡は認められず、また火口内の地形にも大きな変化はなかった。火口底内は中央部が引き続き高温であり、噴火直後の前回（8月10日）と比べて、特段の変化はなかった。

10月2日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,200～2,500トン（前回9月11日、800～1,300トン）と多い状態が続いている。

浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。また、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

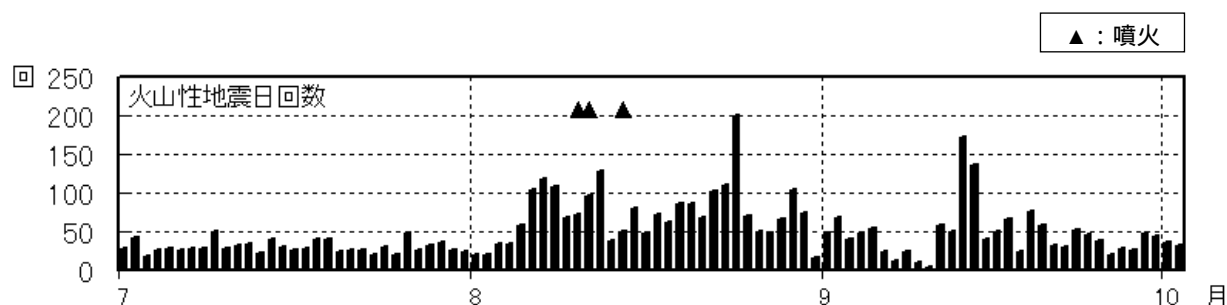


図3 浅間山 火山性地震の日別回数（2008年7月1日～2008年10月2日）

- 2) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ、国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラ及び気象庁の追分カメラによる。

三宅島^{みやけじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

10月2日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり 1,100～1,800 トン（前回9月10日、1,300～1,700 トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では、山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

硫黄島^{いおうとう} [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福德岡ノ場^{ふくとくおかのば} [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では、引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）^{きりしまやま しんもえだけ} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙量の多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね 400m で推移した。火山性地震の発生回数は減少しているが、地震回数が増加し始めた8月18日以前と比べてやや多い状態が続いている。

10月2日に鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、8月22日の噴火以降、勢いよく噴出していた火口内南側の噴気群からの噴気はやや減少していた。その他の噴気孔では特段大きな変化はなかった。

新燃岳では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から 1 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾に注意が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。桜島直下にマグマが新たに移動、上昇したことを示す地殻変動は観測されていない。

国土地理院の GPS 観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。桜島の昭和火口の噴火活動は、2006 年 6 月以降、長期的には次第に活発化する傾向がみられている。

桜島では、引き続き南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に大きな噴石¹⁾を飛散させる噴火が発生すると予想されるので、これらの火口周辺では警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき³⁾）にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつまおうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 300m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では警戒が必要である。

くちのえらぶじま

口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震は少ない状態が続いているが、火山性微動は時々発生している。

GPS による地殻変動観測では、9 月以降、新岳火口周辺の膨張傾向を示すわずかな変化がみられている。

10 月 1 日に九州地方整備局の協力を得て行った上空からの観測では、新岳火口の南側火口壁で噴気が増加しているのを確認した。

口永良部島では、依然として火山活動は高まった状態が続いており、火口の周辺に大きな噴石¹⁾を飛散させる噴火が発生すると予想されるので、新岳火口から約 1 km の範囲では警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾にも注意が必要である。

すねのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。噴火のほとんどは、弱い空振を伴う爆発的噴火であった。これらの噴火に伴う噴煙の高さは火口縁上 500 ~ 2,000m であった。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口から約 1 km の範囲に大きな噴石¹⁾を飛散させる噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

【その他の火山の活動状況】

伊豆大島^{いずおおしま}〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

10月1日から10月2日にかけて、島の西部を震源とする地震がまとまって発生した。最大の地震は10月1日17時00分に発生したマグニチュード⁴⁾2.6（暫定値）で、伊豆大島町岡田及び元町で震度2を観測した。

これらの地震活動に伴って、体積歪計^{たいせきひずみ}計⁵⁾や傾斜計⁶⁾には火山活動に起因すると考えられる変化は認められず、噴気の状態等、表面現象にも異常は観測されていない。

なお、島の西部から西方海域にかけては、これまでも時々地震の増加がみられており、最近では2007年7月にも発生している。

伊豆大島では引き続き火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられず、噴火予報（平常）が継続している。

4）マグニチュード（M）は地震の規模を示す。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがある。

5）センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがある。

6）地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード	海底火山に対するキーワード
噴火警報	レベル5（避難）	居住地域厳重警戒または山麓厳重警戒	周辺海域警戒
	レベル4（避難準備）		
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	入山危険	
	レベル2（火口周辺規制）	火口周辺危険	
噴火予報	レベル1（平常）	平常	平常